



王子ホールディングス株式会社 グリーンファイナンス・フレームワーク セカンド・パーティ・オピニオン



セカンド・パーティ・オピニオン

SECOND PARTY OPINION

王子ホールディングス株式会社
グリーンファイナンス・フレームワーク

Prepared by: DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社

Location: 神戸, 日本

Date: 2023 年 1 月 24 日

Ref. Nr.: PRJN-403835-2022-AST-JPN-01

目次

報告書サマリー	3
I. まえがき	5
II. スコープと目的	15
III. 王子 HD 及び DNV の責任	16
IV. DNV 意見の基礎	17
V. 評価作業	18
VI. 観察結果と DNV の意見	19
スケジュール-1 グリーンファイナンス候補プロジェクト	26
スケジュール-2 グリーンファイナンス適格性評価手順	27

改訂履歴

改訂番号	発行日	主な変更内容
0	2023 年 1 月 24 日	初版発行

Disclaimer

Our assessment relies on the premise that the data and information provided by Issuer to us as part of our review procedures have been provided in good faith. Because of the selected nature (sampling) and other inherent limitation of both procedures and systems of internal control, there remains the unavoidable risk that errors or irregularities, possibly significant, may not have been detected. Limited depth of evidence gathering including inquiry and analytical procedures and limited sampling at lower levels in the organization were applied as per scope of work. DNV expressly disclaims any liability or co-responsibility for any decision a person or an entity may make based on this Statement.

Statement of Competence and Independence

DNV applies its own management standards and compliance policies for quality control, in accordance with ISO/IEC 17021:2011 - Conformity Assessment Requirements for bodies providing audit and certification of management systems, and accordingly maintains a comprehensive system of quality control, including documented policies and procedures regarding compliance with ethical requirements, professional standards and applicable legal and regulatory requirements. We have complied with the DNV Code of Conduct¹ during the assessment and maintain independence where required by relevant ethical requirements. This engagement work was carried out by an independent team of sustainability assurance professionals. DNV was not involved in the preparation of statements or data included in the Framework except for this Statement. DNV maintains complete impartiality toward stakeholders interviewed during the assessment process.

¹ DNV Code of Conduct is available from DNV website (www.dnv.com)

報告書サマリー

王子ホールディングス株式会社(以下、王子 HD)を中核とする王子グループは、1873 年(明治 6 年)に創業され、現在では「製紙」業のみならず、パッケージング事業やパルプ事業など素材加工一体型事業や再生可能エネルギーである水力発電やバイオマス発電などの電力事業、さらにはバイオマスプラスチックやセルロースナノファイバーの開発などの未来を担うグリーンイノベーションに注力しています。事業環境も王子グループ自身も大きく変化してゆく中で、経営理念「革新的価値の創造」、「未来と世界への貢献」、「環境・社会との共生」を軸に、中長期的な企業価値の向上を図っています。

王子グループでは、2050 年度に「ネット・ゼロ・カーボン」を目指す「環境ビジョン 2050」を制定しており、パリ協定等の国際的なシナリオや、国内における各政策で目標としている 2050 年カーボンニュートラルの実現に向けた道筋に沿っているものと考えられます。

「環境ビジョン 2050」のマイルストーンとして、「環境行動目標 2030」を制定しており、2030 年度の GHG 排出量を 70%削減(2018 年度対比)する目標を掲げています。これは GHG 排出量の削減と、王子グループが所有する森林による CO₂ の純吸収量の拡大から構成されています。目標達成に向けたロードマップを作成するとともに、目標達成の確度をあげるため、プロジェクトチームを編成して取り組んでいます。また、バイオマス発電や水力発電などの再生可能エネルギー電力の供給による第三者の GHG 排出量削減への貢献にも継続して取り組んでいます。

DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社(以下、DNV)は外部レビュー機関として、王子ホールディングス・グリーンファイナンス・フレームワークの適格性に関して評価しました。このグリーンファイナンスにより実行されるプロジェクトは、上記の取り組みの推進に活用するものであり、また、グリーンファイナンスを通じて、投資家・取引先・地域社会・従業員をはじめとするステークホルダーに対し、王子グループが目指す脱炭素社会の実現に向けた環境経営への取り組みを改めて発信するものとなっています。

DNV はフレームワークの適格性について、グリーンボンド原則(国際資本市場協会(ICMA) 2021 以下、GBP)、グリーンボンドガイドライン(環境省 2022 以下、GBGLs)、グリーンローン原則(ローン・マーケット・アソシエーション(LMA)他 2021 以下、GLP)、グリーンローンガイドライン(環境省 2022 以下、GLGLs)を適用し、また適用可能な場合には気候ボンド基準(CBS、v3.0 以下 CBS)及び EU Taxonomy の技術基準を参照し、評価を提供します。

GBP 及び GBGLs、GLP 及び GLGLs で示される 4 つの要素についての評価結果概要は、以下の通りです。

要素 1. 調達資金の使途：

王子 HD では、調達資金の使途を「再生可能エネルギー」、「持続可能な森林資源の保全」に該当するプロジェクトと定義しています。これは GBP、GBGLs、GLP、GLGLs に明示されている適格グリーンプロジェクトに該当します。具体的には、以下に挙げられた事業に関する新規投資及びリファイナンスに調達資金を充当することが計画されています。

- (a) 再生可能エネルギー：バイオマス(発電、熱供給)、太陽光発電、水力発電、陸上風力発電
- (b) 持続可能な森林資源の保全：生産林、環境保全林の取得、保全に係る支出

要素 2. プロジェクトの評価と選定のプロセス：

グリーンプロジェクトは、2050 年度に「ネット・ゼロ・カーボン」を掲げた「環境ビジョン 2050」、および GHG 排出量を 70%削減(2018 年度対比)する目標を制定した「環境行動目標 2030」などの取り組みや、再生可能エネルギー電力の供給による第三者の GHG 排出量削減への貢献への取り組みの推進に活用される予定です。

プロジェクトの適格性の評価および選定にあたっては、王子グループの経営支援に携わる王子マネジメントオフィス株式会社（以下、王子 MO）のグループ財務本部が、対象となるプロジェクトを管理するグループ会社、およびグループの環境ガバナンスを総括管理するサステナビリティ推進本部と連携し、グループ CEO が最終決定を行うプロセスが確立しています。仮に環境・社会への重大な悪影響が想定される場合は、当該プロジェクトは適格プロジェクトから除外されます。

要素 3. 調達資金の管理：

調達資金の全ては規定された管理フローに従い、王子 MO のグループ財務本部が CMS 等の内部システムを用いて管理するとともに、専用の帳簿等を用いて管理し、充当状況を継続的にモニタリングする予定です。リファイナンスの場合は、グリーンファイナンスによる資金調達から 3 年以内に支出を行ったプロジェクトに限定します。充当期間は資金調達からおよそ 2 年以内を目途に充当される予定となっています。また、未充当金資金は現金または現金同等物として管理されます。

要素 4. レポーティング：

調達資金が全額充当されるまでの間、適格プロジェクト毎の充当額(新規支出とリファイナンスの割合を含む)と未充当金額を少なくとも年に 1 回ウェブサイトで開示する予定です。また、調達資金の残高が存在する限り、実務上可能な範囲で、環境改善効果を少なくとも年に 1 回ウェブサイトで開示する予定です。

DNV は、フレームワークをはじめとする王子 HD より提供された関連文書・情報から、グリーンファイナンスが関連する基準を満たし、適切に設計され、実施される見込みであることを確認しました。

I. まえがき

i. 資金調達者について

王子グループは 1873 年（明治 6 年）の創業から、多くの企業合併や事業領域の拡大と共に成長を続けてきました。現在では「製紙」業のみならず、パッケージング事業やパルプ事業など素材加工一体型事業や再生可能エネルギーである水力発電やバイオマス発電などの電力事業、さらにはバイオマスプラスチックやセルロースナノファイバーの開発などの未来を担うグリーンイノベーションに注力しています。事業環境も王子グループ自身も大きく変化してゆく中で、経営理念「革新的価値の創造」、「未来と世界への貢献」、「環境・社会との共生」を軸に、中長期的な企業価値の向上を図っています。また、2022 年 5 月には王子グループの存在意義（パーパス）として、「森林を健全に育て、その森林資源を活かした製品を創造し、社会に届けることで、希望あふれる地球の未来の実現に向け、時代を動かしていく」を掲げました。王子グループの事業の核は、王子グループの大切な財産である“森林”です。森林を適切に育て、管理することは、再生可能な森林資源を生産するだけでなく、CO₂の吸収固定や生物多様性保全、水源涵養、土壌保全など、森林が持つ様々な公益的機能を高めることに繋がります。また王子グループの本業である、世界中の人々の生活を支え、豊かにすることを目的としてお届けしている森林資源を活用した製品群は、化石資源由来の素材・製品を置き換えていくことができます。地球温暖化への対応や生物多様性保全といった環境への配慮という命題に対し、この極めて大きな特異性、特長を存分に発揮して事業活動をするこそが王子グループの「存在意義」であると考えています。近年の経営環境は大きくかつ急速に変化しています。変わり続ける時代のニーズを充足し、新しい未来を支えるモノづくりを、そして持続可能な社会の発展を目指して、王子グループは進み続けています。

ii. 資金調達者の ESG への取組み

王子グループの基盤である紙づくりは、以下の 3 つのリサイクルに支えられています。

- ① 森のリサイクル：持続可能な森林経営を実践する。
- ② 水のリサイクル：取水量の削減や排水の浄化に取り組む。
- ③ 紙のリサイクル：古紙を紙へ再資源化する。

このサステナブルなビジネスモデルをグローバルに展開し、事業そのものが持続可能な社会の構築に貢献できるよう、王子グループは取り組んでいます。

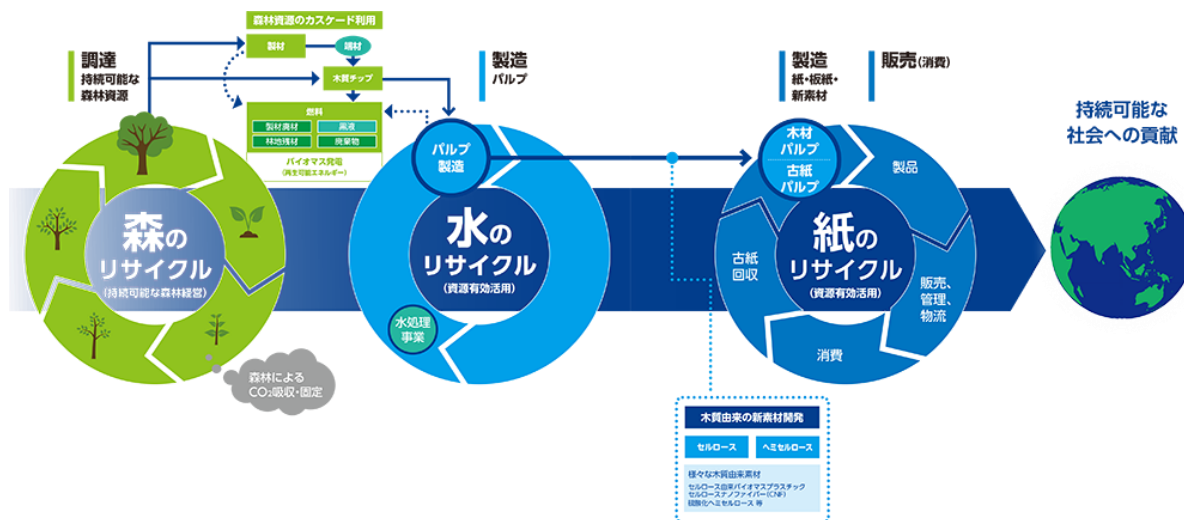


図-1 3つのリサイクル

- ① 森のリサイクル：「木を使うものは木を植える義務がある」という考えの下、国内外で現地の生態系に配慮しながら、木を植え、育てて使い、また木を植えるという持続可能な森林経営に取り組み、豊かな森を育んでいます。
- ② 水のリサイクル：紙・パルプの製造には多くの水が必要です。製造工程の中で、一度使った水を処理して再利用することで、取水量を削減しています。また、排水の浄化に取り組み、環境負荷の軽減にも努めています。
- ③ 紙のリサイクル：紙の原料の約 6 割は古紙、約 4 割は木材です。古紙リサイクルシステムを維持しながら、あらゆる種類の古紙の回収・活用を進め、古紙の利用促進に取り組んでいます。

iii. 資金調達者の環境方針

王子グループは、「木を使うものは木を植える義務がある」という考えのもと、明治時代より植林を通じて社会や環境に対する企業の社会的責任に取り組んできました。1997 年、「広く地球的視点に立って環境と調和した企業活動を展開し、真に豊かで持続可能な社会の実現に貢献する」を基本理念とする「王子製紙環境憲章」を制定し、「森のリサイクル」「紙のリサイクル」を柱とした取り組みが「王子グループ環境憲章」として現在に受け継がれています。

王子グループ環境憲章

基本理念

王子グループは、広く地球的視点に立って環境と調和した企業活動を展開し、真に豊かで持続可能な社会の実現に貢献する。そのため一層の環境改善に取り組むとともに、森のリサイクル、紙のリサイクル、地球温暖化対策などを積極的に推進する。

行動指針

1. 森のリサイクル推進
2. 紙のリサイクル推進
3. 地球温暖化対策の推進
4. 環境改善対策・環境管理体制の強化
5. 環境負荷の小さい生産技術と製品の開発
6. 廃棄物の低減と有効利用の促進
7. 環境対策技術の海外移転推進
8. ステークホルダーとの信頼関係の構築

iv. 資金調達者の 2050 年度ネット・ゼロ・カーボンへの取り組み

主要原料の木材をはじめ、再生可能な資源を活用する王子グループにとって、自然環境の保全は事業の継続のために必要不可欠です。また、王子グループは気候変動問題を経営上の重要課題と認識しており、この問題に積極的に取り組むことにより、事業活動の持続可能性を高めることができていると考えています。

王子グループでは、この方向性を明確に示すため、王子グループが目指す姿「ネット・ゼロ・カーボン」を中核とする、2050 年に向けた「環境ビジョン 2050」を策定しました。これは、パリ協定等の国際的なシナリオや、国内における各政策で目標としている 2050 年カーボンニュートラルの実現に向けた道筋に沿っているものと考えられます。

「環境ビジョン 2050」のマイルストーンとして、「環境行動目標 2030」を 2020 年 9 月に制定しており、2030 年度の GHG 排出量を 70%削減(2018 年度対比)する目標を掲げています。これは GHG 排出量の削減と、王子グループが所有する森林による CO₂ の純吸収量の拡大から構成されています。目標の達成に向けたロードマップ(図-2)を作成するとともに、目標達成の確度をあげるため、プロジェクトチームを編成して取り組んでいます。

	区分	項目	GHG 削減量 (千t-CO ₂ e)	GHG 削減 効果			2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	
GHG 排出 量 削減	エネルギー 効率の改善	省エネルギーの継続	200	2.6%			5年平均1.0%以上の消費エネルギー削減の継続										
		再生可能 エネルギー 利用率の向上	石炭使用量削減	1,007	12.9%			技術調査 開発 投資判断 設置 国内12基の石炭ボイラを対象に燃料転換を検討									
	自家用太陽光発電 設備設置等		360	4.5%			設置計画 投資判断 設置 自家用太陽光パネルの設置を検討										
	小計		1,567	20.0%													
	森林による CO ₂ 純 吸 収 量 拡大	森林保全・ 植林への投資	植林地の拡大	3,918	50.0%			海外生産林 256千ha	海外生産林 400千ha								
早生樹の植林							探索・土地調査 事業性評価 取得検討・半断 林木育種(品種改良)・優良品種植林の継続										
合計			5,485	70.0%													

図-2 2030 年度までのロードマップ

王子グループの2030年度削減目標は、GHG排出量^{※1}の削減、所有する森林によるCO₂の純吸収量^{※2}の拡大から構成されており、目標達成に向けて2030年までにそれぞれ1,000億円、計2,000億円の投資を行う予定になっています。

※1 SCOPE1（燃料の燃焼にともなう直接排出）+SCOPE2（購入電気・熱による間接排出）

※2 ゲイン・ロス法（当該年度の森林CO₂吸収量－当該年度の伐採によるCO₂排出量）により算出



※1：再生可能燃料及び廃棄物燃料起源のCO₂、CH₄、N₂Oも含む

※2：国内化石燃料および購入エネルギー由来のCO₂排出量に対しては41%削減（2013年比）

図-3 2030年までのGHG削減目標と投資額

(a) GHG 排出量削減

環境行動目標 2030 では、GHG 排出量を基準年（2018 年度）対比 20%（1,567 千 t-CO₂e）削減することを目標に掲げています。目標達成に向けて、エネルギー効率の改善（徹底した省エネルギーによるエネルギー消費原単位の低減）、および再生可能エネルギー利用率の向上（石炭燃料使用量削減、自家用太陽光発電設備の設置など）を継続的に取り組んでいます。

① エネルギー効率の改善

王子グループは、省エネルギーを重要な課題と位置付け、継続的に取り組んでいます。例えば工場では定期的に、エネルギー管理部門と生産部門が参加して省エネルギー会議を開催しています。設備の更新だけでなく、設備運用方法の変更など、様々なアイデアを検討しています。生産量の減少はエネルギー消費原単位の悪化を招きますが、余剰設備の停止や地道な省電力・省蒸気を行い、今後も省エネルギーに継続的に取り組んでいます。

② 再生可能エネルギー利用率の向上

石炭削減検討状況：石炭を使用するボイラは国内に 15 基（2021 年度末実績）、予備機等を除いた 12 基を対象に燃料転換の検討を実施。石炭専焼ボイラ 3 基について、燃料転換に伴う設備、技術調査を実施、燃料転換により約 1,000 千 t-CO₂ の削減量を見込みます。

太陽光発電の新設：自家用太陽光発電設備の設置

（王子コンテナ/栃木工場、王子マテリア/釧路・祖父江・佐賀工場等で検討中）

更にバイオマス発電や水力発電などの再生可能エネルギー電力の供給による第三者の GHG 排出量削減への貢献にも継続して取り組んでいます。

(b) 森林による CO₂ 純吸収量の拡大

環境行動目標 2030 では、基準年（2018 年度）GHG 排出量の 50%相当（3,918 千 t-CO₂e）を、森林によって吸収・固定することを目標に掲げ、そのために、2030 年度までに海外植林地を 400 千 ha に拡大することを目標としています。

王子グループは、国内外に 432 千 ha の生産林、141 千 ha の環境保全林の合計 573 千 ha の森林を保有し、環境、社会、経済に配慮した持続可能な森林経営を実践しています。2018 年度から 2021 年度の CO₂ 純吸収量は、生産林と環境保全林を合わせて年平均 653 千 t-CO₂、2021 年度末の CO₂ 固定量は 1 億 900 万 t-CO₂ に及びます。

今後の取り組みとしては、CO₂ 純吸収量拡大のため、既に事業展開をしている、南米、オセアニア、東南アジア等にてさらなる植林地の取得を進めるとともに、植林事業を展開する地域に適合した早生樹植林・育成をしながら、より優良な早生樹の開発による CO₂ 吸収促進を行っていく予定です。

2030 年度までに海外植林地を 400 千 ha に拡大するための費用は、2021 年 3 月期時点で、約 1,000 億円と試算しています。この拡大により 2030 年度の王子の森（生産林、環境保全林）の総面積は 717 千 ha となる見込みです。

v. 資金調達者の SDGs への取組

王子 HD では、以下のようにマテリアリティを特定するとともに、対応する SDGs を特定しています。今回のグリーンファイナンスの資金使途である再生可能エネルギーと持続可能な森林資源の保全は、下記のマテリアリティのうち、主に 1 つ目の気候変動の緩和・適応及び 2 つ目の持続可能な森林経営(森のリサイクル)の目標達成に貢献するものです。

表-1 王子 HD のマテリアリティと SDGs (王子グループ統合報告書 2022 から抜粋)

マテリアリティ	定性目標	対応する SDGs
気候変動の緩和・適応	● GHG 排出量の削減 ● 森林保全による CO₂吸収・固定の維持と拡大 ● 再生可能エネルギー利用の推進 ● エネルギーの効率的な利用	 7.2,7.3, 7.a  9.4,9.5  12.2  13.1,13.2, 13.3
持続可能な森林経営 (森のリサイクル)	● 森林認証取得率の向上 ● 海外植林地の維持・拡大	 6.6  8.7  14.2  15.1,15.2, 15.3,15.4, 15.5,15.c
責任ある原材料調達	● サプライチェーン・マネジメントの徹底	 8.7  12.1,12.4, 12.6  15.1,15.2
環境負荷の低減 (大気、水、廃棄物)	● 排水と排気の浄化を推進 ● 廃棄物有効利用率の向上	 3.9  6.1,6.3,6.4  11.6  14.1,14.2, 14.3  17.7,17.8
資源有効活用 (紙のリサイクル・水のリサイクル)	● 古紙利用率の向上 ● 取水原単位の削減	 6.4,6.5  12.4,12.5, 12.6  14.1  15.1,15.2, 15.3,15.4, 15.5,15.c
安全安心な 製品の安定供給	● 製造物責任事故ゼロの継続	 9.4,9.b  12.4,12.6  17.7
人権の尊重	● 人権教育・研修の実施	 5.1,5.4, 5.5,5.c  8.5,8.7, 8.8  10.2,10.3, 10.4

職場の安全衛生の確保	● 死亡・重篤災害ゼロ ● 労働災害度数率の減少 ● 安全管理体制、安全リスクマネジメントおよび安全教育の強化	 8.8
インクルージョン &ダイバーシティ	● 女性管理職比率の向上 ● 障がい者雇用率の向上	 5.1,5.4 5.5,5.c  8.2,8.5 8.8  10.2,10.3

* SDGs との関連性は、グリーンボンド原則を定める ICMA が公開している Green, Social and Sustainability Bonds: A High-Level Mapping to the Sustainable Development Goals を参照した、グリーンファイナンスに際して補完的なものであり、直接的に資金調達目的として関連付けるものではありません。

vi. 外部イニシアティブ

王子 HD では、ESG の取組を強化するために以下のような外部イニシアティブに積極的に参加しています。

表-2 王子グループが参加している外部イニシアティブ

	イニシアティブ名	内容
1	国連グローバル・コンパクトへの取り組み	王子グループは、国連グローバル・コンパクトに参加して「人権・労働・環境・腐敗防止」に関する 10 原則を支持し、日々の事業活動における実践に努めています。
2	気候関連情報の開示 	王子グループは、2020 年 12 月に TCFD への賛同を表明するとともに、本提言に沿った開示の強化を進めています。
3	CDP 評価の獲得 	王子 HD は、2022 年 12 月、国際的な非政府組織 CDP より、「フォレスト（木材）」において、持続可能な森林経営が認められ、最高評価「A スコア」を獲得しています。また、「気候変動」、「水セキュリティ」においては、リーダーシップレベルの「A-」の評価を受けています。
4	生物多様性のための 30by30 アライアンスへの参加 	王子 HD は、2022 年 4 月に、2030 年までに陸と海の 30%の保全を目指す目標「30by30」達成に向けた取り組みをオールジャパンで進めるため、有志の企業・自治体・団体により発足した「生物多様性のための 30by30 アライアンス」に参加しています。
5	Dow Jones Sustainability Asia Pacific Index への選定 	王子 HD は、2022 年 12 月、持続可能性に優れた企業を選定する「Dow Jones Sustainability Index (DJSI)」の「Dow Jones Sustainability Asia Pacific Index」構成銘柄に 3 年連続で選定されました。
6	FTSE4Good Index Series、FTSE Blossom Japan Index、FTSE Blossom Japan Sector Relative Index への選定 	王子 HD は、2022 年 4 月に、ESG 投資指数である「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」の構成銘柄に選定されました。また、2022 年 7 月には 4 年連続で「FTSE4Good Index Series」および「FTSE Blossom Japan Index」の構成銘柄に選定されました。
7	SOMPO サステナビリティ・インデックスへの選定 	王子 HD は、2022 年 6 月に ESG の取組みに優れる約 300 銘柄から構成される「SOMPO サステナビリティ・インデックス」の構成銘柄に 4 年連続で選定されました。

8	SUSTAINA ESG AWARDS の受賞 	王子 HD は、2021 年 9 月より毎年、ESG に積極的に取り組む企業を称える表彰制度「SUSTAINA ESG AWARDS」のパルプ・紙部門において、ゴールドを受賞しています。
---	--	--

vii. グリーンファイナンス・フレームワークについて

王子 HD はグリーンファイナンス実行に当たり、国際資本市場協会(ICMA)が定めるグリーンボンド原則(GBP, 2021 年版)及び環境省のグリーンボンドガイドライン(GBGLs, 2022 年版)、ローン・マーケット・アソシエーション(LMA)他が定めるグリーンローン原則(GLP, 2021 年版)及び環境省のグリーンローンガイドライン(GLGLs, 2022 年版)に基づき、フレームワークを確立しました。

グリーンファイナンスで調達した資金の全額は、下記のグリーンプロジェクトカテゴリーに分類される何れか又は複数のグリーンプロジェクトに充当することを計画しており、確立したフレームワークに基づき管理・実行されます。

- (a) 再生可能エネルギー(バイオマス(発電、熱供給)、太陽光発電、水力発電、陸上風力発電)**
- (b) 持続可能な森林資源の保全(生産林、環境保全林の取得、保全に係る支出)**

資金調達者名称：王子ホールディングス株式会社

フレームワーク名：王子ホールディングス グリーンファイナンス・フレームワーク

外部レビュー機関名：DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社

報告書作成日：2023 年 1 月 24 日

II. スコープと目的

王子 HD は DNV に「王子 HD グリーンファイナンス」のフレームワーク評価を委託しています。DNV におけるフレームワーク評価の目的は、王子 HD が、後述する基準である GBP, GBGLs, GLP, GLGLs 及び適用可能な CBS の関連する技術基準、他に関連する基準もしくはガイドライン(下表参照)に合致していることを確認するための評価を実施し、このグリーンファイナンスの適格性についてセカンドパーティオピニオンを提供することです。

DNV は独立した外部レビュー機関としてセカンドパーティオピニオンの提供に際し、王子 HD とは事実及び認識においていかなる利害関係も持たないことを宣言します。

また、この報告書では、グリーンファイナンスの財務的なパフォーマンス、いかなる投資の価値、あるいは長期の環境便益に関しての保証も提供されません。

(1) レビューのスコープ

レビューは以下の項目について評価し、GBP/GLP の主要な 4 要素の主旨との整合性について確認しました。

- | | |
|---|---|
| ☒ 調達資金の使途 | ☒ プロジェクトの選定と評価のプロセス |
| ☒ 調達資金の管理 | ☒ レポーティング |

(2) レビュー提供者の役割

- | | |
|--|------------------------------|
| ☒ コンサルタント・レビュー(セカンド・オピニオンを含む) | ☐ 認証 |
| ☐ 検証 | ☐ 格付け |
| ☒ その他: グリーンファイナンス登録支援者(外部レビュー部門)としてレビューを提供 | |

(3) 適用又は参照される基準

No.	基準もしくはガイドライン	発行者	適用レベル*1*2
1.	グリーンボンド原則	国際資本市場協会 (ICMA) 、2021	適用
2.	グリーンボンドガイドライン	環境省、2022	適用
3.	グリーンローン原則	ローン・マーケット・アソシエーション(LMA)他、2021	適用
4.	グリーンローンガイドライン	環境省、2022	適用
5.	気候ボンド基準 3.0 版 (セクター技術基準)	気候ボンドイニシアチブ、2019	参照 (参照可能な技術基準)
6.	グリーンボンド及びソーシャルボンド: 持続可能な開発目標(SDGs)に照らしたハイレベルマッピング	国際資本市場協会 (ICMA) 、2018	参照
7.	インパクトレポーティング調和化に関する冊子	国際資本市場協会 (ICMA) 、2019	参照
8.	EU タクソミー	欧州委員会(EC)	参照 (参照可能な技術基準)

*1 適用: 各原則やガイドライン共通の 4 つの核全てに対する適格性を評価した

*2 参照: 今回のグリーンファイナンスのプロジェクトや実行計画に基づき、関連する内容を部分的に考慮した



Ⅲ. 王子 HD 及び DNV の責任

王子 HD は、DNV がレビューを実施する間に必要な情報やデータを提供しました。DNV のセカンドパーティオピニオンは、独立した意見を表明するものであり、我々に提供された情報を基に、確立された基準が満たされているかどうかについて王子 HD 及び債券又はローンの利害関係者に情報提供することを意図しています。その業務において我々は、王子 HD から提供された情報及び事実に依拠しています。DNV は、この意見表明の中で参照する選定された資産のいかなる側面に対して責任がなく、また試算、観察結果、意見又は結論が不正確である場合、それに対し責任を問われることはありません。従って DNV は、王子 HD の関係者から提供されたこの評価の基礎として使用された情報やデータの何れかが正確または完全でなかった場合においても、責任を問われないものとします。

IV. DNV 意見の基礎

DNV は、資金調達者にとってより柔軟なグリーンファイナンス適格性評価手順（以下、「手順」）を適用するために、GBP および GBGLs、GLP および GLGLs の要求事項を考慮した王子グループグリーンファイナンス評価手順を作成しました。スケジュール-2 を参照してください。この手順は GBP および GBGLs、GLP および GLGLs に基づくグリーンファイナンスに適用可能です。

DNV の手順は、DNV の意見表明の根拠に資する一連の適切な基準を含んでいます。その基準の背景にある包括的な原則は、グリーンファイナンスが「環境への利益をもたらす新規又は既存プロジェクトのための資本調達や投資を可能とする」というものです。

DNV の手順に従って、レビュー対象であるこのグリーンファイナンスに対する基準は、以下の 4 つの要素にグループ分けされます。

- **要素 1：調達資金の使途**：調達資金の使途の基準は、グリーンファイナンスの資金調達者は、グリーンファイナンスにより調達した資金を適格プロジェクトに使わなければならない、という要求事項によって定められています。適格プロジェクトは、明確な環境改善効果を提供するものです。
- **要素 2：プロジェクトの評価及び選定のプロセス**：プロジェクトの評価及び選定の基準は、グリーンファイナンスの資金調達者が、グリーンファイナンス調達資金を使途とする投資の適格性を判断する際に従うプロセスの概要を示さなければならない、また、プロジェクトが目的に対する影響をどのように考慮しているかの概要を示さなければならない、という要求事項によって定められています。
- **要素 3：調達資金の管理**：調達資金の管理の基準は、グリーンファイナンスが資金調達者組織によって追跡管理されなければならないこと、また、必要な場合には、区別されたポートフォリオを構築し、未充当資金がどのように扱われるか公表するという観点で作成されなければならないことが、要求事項によって定められています。
- **要素 4：レポート**：レポートの基準は、債券及びローンへの投資家に対して、少なくとも、資金の充当状況及び可能な場合には定量的もしくは定性的かつ適切なパフォーマンス指標を用いたサステナビリティレポートを発行する、という推奨事項によって定められています。

V. 評価作業

DNV の評価作業は、資金調達者によって誠実に情報提供されたという理解に基づいた、利用可能な情報を用いた包括的なレビューで構成されています。DNV は、提供された情報の正確性をチェックするための監査やその他試験等を実施していません。DNV の意見を形成する評価作業には、以下が含まれます。

i. グリーンファイナンス資金調達前アセスメント

- この評価に資する上述及びスケジュール-2 に関し、グリーンファイナンスへの適用を目的とした資金調達者特有の評価手順の作成。
- このファイナンスに関して資金調達者より提供された根拠文書の評価、及び包括的なデスクトップ調査による補足的評価。これらのチェックでは、最新のベストプラクティス及び標準方法論を参照。
- 資金調達者との協議及び、関連する文書管理のレビュー。
- 基準の各要素に対する観察結果の文書作成。

ii. グリーンファイナンス資金調達後アセスメント（*この報告書には含まれません）

- グリーンファイナンス調達後に、資金調達者により提供された根拠書類の評価、包括的なデスクレビューによる補足評価
- 資金調達者の管理者へのインタビュー及び関連する文書管理のレビュー
- 現地調査および検査（必要な場合）
- 調達後時点での対象プロジェクト及び資産のレビュー（スケジュール-1 に記載された内容の更新）
- 調達後検証での観察結果の文書作成

VI. 観察結果と DNV の意見

DNV の観察結果と意見は以下の通りです。

(1) 調達資金の使途

DNV は王子 HD がグリーンファイナンスにより調達した資金全額のうち、経費を除く手取り金の全てが GBP 及び GBGLs、GLP 及び GLGLs で示される以下の代表的な適格プロジェクトカテゴリに合致したグリーン候補プロジェクトのうち、何れか又は複数のグリーンプロジェクトの建設・設置、運営及び維持管理に関する、新規投資及びリファイナンスとして充当される計画であることを確認しました。

「再生可能エネルギー」

・**バイオマス(発電、熱供給)**：候補プロジェクトは、CBS の技術基準を参照する、バイオマス発電事業です。バイオマス燃料の調達プロセス、化石燃料比の GHG 削減割合、設備仕様等のグリーン適格性基準を満たすことを確認しました。また、各種関係法令に基づいて地元自治体や周辺地域に配慮するとともに、法令で定める環境アセスメント対象外の設備であったとしても、専門機関による簡易環境アセスメントを実施して、工事に伴う周辺環境への影響について評価を行い、結果に応じて適切に対処されることを確認しました。

・**太陽光発電**：CBS の技術基準を参照する、陸上の太陽光発電事業(関連設備を含む)です。対象となる事業の選定・実施においては、既存グリッドに接続される陸上の太陽光発電設備の建設・設置、運営及び維持管理であり、化石燃料を用いたバックアップ電源等は付帯しないことを確認しました。

・**水力発電**：CBS の技術基準を参照する、水力発電事業です。対象となる水力発電所の形式によっては、運転開始時期に応じた単位貯水池/調整池面積(m^2)あたりの出力(W)が基準値を満たすことが確認されます。また、各種関係法令に基づいて地元自治体や周辺地域に配慮するとともに、法令による環境アセスメントの対象外の設備であったとしても、自主アセスメントを実施して、工事に伴う周辺環境への影響について評価を行い、結果に応じて適切に対処されることを確認しました。

・**陸上風力発電**：CBS の技術基準を参照する、陸上の風力発電事業(関連設備を含む)です。対象となる事業の選定・実施においては、陸上風力発電設備の建設・設置、運営及び維持管理に加えて専用の送電インフラを含むものであり、洋上風力発電設備ではないことを確認しました。

「持続可能な森林資源の保全」

・**生産林、環境保全林の取得、保全に係わる支出**：CBS の技術基準を参照する、森林の取得および保全に関わる事業です。対象となる森林は基本的に FSC 等の持続可能な認証を取得したもの、もしくは今後取得する計画であるとともに、取得の際はアセスメントを実施し、周辺環境への影響が評価され、結果に応じて適切に対処されることを確認しました。

GBP/GLP で分類される調達資金の使途

- | | |
|---|--|
| ☒ 再生可能エネルギー | ☐ エネルギー効率 (省エネルギー) |
| ☐ 汚染防止及び抑制 | ☒ 生物自然資源及び土地利用に係る環境持続型管理 |
| ☐ 陸上及び水生生物の多様性の保全 | ☐ クリーン輸送 |
| ☐ 持続可能な水資源及び廃水管理 | ☐ 気候変動への適応 |
| ☐ 高環境効率商品、環境適応商品、環境に配慮した生産技術及びプロセス | ☐ 地域、国または国際的に認知された標準や認証を受けたグリーンビルディング |
| ☐ その他(具体的に記載) | |
| ☐ 資金調達時には未定であるが、現時点で GBP/GLP 分類または、GBP/GLP には記載されていない他の適格分野に適合することが予想される | |

(2) プロジェクトの評価及び選定のプロセス

DNV はレビューを通じて、スケジュール-1 に記載されるグリーンプロジェクトは、王子グループが策定する「環境ビジョン 2050」および「環境行動目標 2030」に掲げられた CO₂ 排出削減の目標への取り組みや、再生可能エネルギー電力の供給による第三者の GHG 排出量削減への貢献の取り組みに資するプロジェクトであることを確認しました。

プロジェクトの適格性の評価および選定にあたっては、王子グループの経営支援に携わる王子 MO のグループ財務本部が、対象となるプロジェクトを管理するグループ会社、およびグループの環境ガバナンスを総括管理するサステナビリティ推進本部と連携し、グループ CEO が最終決定を行うプロセスが確立していることを確認しました。

また、グリーンプロジェクトの遂行にあたっては、周辺環境及び社会的な影響について、王子 HD は以下の様な体系的な手順を確立していることを確認しました。

1. サステナビリティ推進本部に属する環境管理室が、グループ環境管理規程で定められた環境監査を統括管理し、グループ全体の環境リスクの抽出・低減に取組み、環境事故の未然防止、再発防止を図っています。
2. 王子グループ・パートナーシップ調達方針を制定し、王子グループが使用する原材料の調達に際して、サプライヤーなどの協力を得て CSR 調達を実施し、原材料の調達に伴う法令遵守や環境・社会への影響を確認する取り組みを行っています。

また、プロジェクトの選定に当たっては「Ⅱ項 スコープと目的 (3) 適用又は参照される基準」に示す適格クライテリアに合致すると共に、仮に環境・社会への重大な悪影響が想定される場合は、当該プロジェクトを適格プロジェクトから除外することを確認しました。

評価及び選定

- | | |
|---|---|
| ☒ 資金調達者の環境貢献目標の達成に合致していること | ☒ プロジェクトが定義された適格カテゴリーに適合していることを示した文書化されたプロセスにより評価及び選定されていること |
| ☒ グリーンファイナンスの調達資金の使途として適格なプロジェクトであり、透明性が確保されていること | ☒ プロジェクト実行に伴う潜在的な ESG リスクを特定し、管理していることを文書化されたプロセスにより評価及び選定されていること |
| ☒ 公表されている基準要旨に基づきプロジェクトの評価と選定が行われていること | ☐ (具体的に記載): |

責任に関する情報及び説明責任

- | | |
|---|--|
| ☒ 外部機関による助言若しくは検証による評価/選定基準 | ☒ 組織内部での評価 |
| ☐ その他(具体的に記載): | |

(3) 調達資金の管理

DNV は、王子 HD が資金調達から償還/返済までの間、どのように資金を追跡管理するかについて確認しました。

DNV は王子 HD が資金調達後、適時、適格プロジェクトのファイナンス(新規投融資)及びリファイナンスに充当する計画であることを確認しました。リファイナンスの場合は、グリーンファイナンスによる資金調達から 3 年以内に支出を行ったプロジェクトに限定しています。調達資金の充当期間は、調達からおよそ 2 年以内を目途に充当される予定です。

資金充当状況については、王子 MO のグループ財務本部が、CMS 等の内部システムを用いて管理するとともに、専用の帳簿等を用いて継続的にモニタリングすることを確認しました。

調達資金は、全額が適格プロジェクトに充当されるまで、現金又は現金同等物にて管理する予定です。

調達資金の追跡管理:

- ☒ グリーンファイナンスにより調達された資金のうち充当を計画している一部若しくは全ての資金は、資金調達者により体系的に区別若しくは追跡管理される
- ☒ 未充当資金の一時的な投資の種類、予定が開示されている
- ☐ その他 (具体的に記載):

追加的な開示情報:

- | | |
|--|--|
| ☐ 新規投資のみに充当 | ☒ 既存及び新規投資の両方に充当 |
| ☒ 個別(プロジェクト)の支出に充当 | ☒ ポートフォリオの支出に充当 |
| ☐ 未充当資金のポートフォリオを開示 | ☒ その他(具体的に記載):グリーンファイナンス充当対象となった事業の既存投資、新規投融資の額は年次報告で開示される予定 |

(4) レポートニング

DNV は、GBP 及び GBGLs、GLP 及び GLGLs で要求されるグリーンファイナンス特定の情報に関して、王子 HD のウェブサイトで少なくとも年に 1 回以上、開示される予定であることを確認しました。

資金充当状況は、調達資金全額の充当が完了するまでの間、下記の項目が開示される予定です。また、環境改善効果については、実務上可能な範囲において、下記の項目が開示される予定です。開示は基本的にプロジェクト単位を予定しているものの、状況によってはカテゴリー単位で開示する予定です。また、プロジェクトに重大な変化があった場合は適時その旨を開示する予定になっています。

<資金充当状況>

- 適格プロジェクト毎の充当額(新規支出とリファイナンスの割合を含む)
- 未充当金額

<環境改善効果>

資金使途 カテゴリー	適格プロジェクト	レポートニング項目
再生可能エネルギー	• バイオマス(発電、熱供給) • 太陽光発電 • 水力発電 • 陸上風力発電	• プロジェクト概要 • 発電電力量 (MWh) または発電容量 (MW) (熱供給の場合はボイラの容量) • CO₂ 排出削減量 (実績値または計画値を基に推計)
持続可能な 森林資源の保全	• 生産林、環境保全林の取得、保全に係わる支出	• プロジェクト概要 • 持続可能な管理の対象となる森林等の面積 (ha) • CO₂ 固定量 (t-CO₂) または CO₂ 純吸収量 (t-CO₂)

資金充当状況に関する報告事項:

- | | |
|--|---|
| ☒ プロジェクト単位 | ☒ プロジェクトポートフォリオ単位 |
| ☐ 関連する個々の債券単位 | ☐ その他(具体的に記載): |

報告される情報:

- | | |
|--|--|
| ☒ 資金充当額 | ☐ 資総額のうちグリーンファイナンスにより充当された額割合 |
| ☒ その他(具体的に記載):未充当額と、調達資金のうちグリーンファイナンスに充当された部分の割合 | |

頻度:

- | | |
|--|-------------------------------|
| ☒ 毎年 | ☐ 半年ごと |
| ☐ その他(具体的に記載): | |

インパクトレポーティング（環境改善効果）:

- | | |
|--|---|
| ☒ プロジェクト単位 | ☒ プロジェクトポートフォリオ単位 |
| ☐ 関連する個々の債券単位 | ☐ その他(具体的に記載): |

頻度:

- | | |
|--|-------------------------------|
| ☒ 毎年 | ☐ 半年ごと |
| ☐ その他(具体的に記載): | |

報告される情報 (予測される効果、若しくは資金調達後):

- | | |
|--|-----------------------------------|
| ☒ GHG 削減量/固定量または純吸収量 | ☐ エネルギー削減量 |
| ☒ その他の ESG 評価項目(具体的に記載): | 発電電力量(MWh)または発電容量 (MW)、森林等の面積(ha) |

開示方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 財務報告書に記載 | ☐ サステナビリティレポートに記載 |
| ☐ 臨時報告書に記載 | ☒ その他(具体的に記載): 資金調達者ウェブサイト |
| ☐ レビュー済報告書に記載(この場合は、外部レビューの対象となった報告項目を具体的に記載): | |

評価結果

DNV は、王子 HD から提供された情報と実施された業務に基づき、王子 HD がグリーンファイナンス適格性評価手順の要求事項を満たしており、GBP 及び GBGLs、GLP 及び GLGLs の「環境への利益を伴う新規プロジェクトもしくは既存プロジェクトへの資本調達及び投資を可能にする」というグリーンファイナンスの定義・目的と一致していることを意見表明します。

DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社.

2023 年 1 月 24 日



マーク ロビンソン

サステナビリティサービス マネージャー

DNV ビジネス・アシュアランス、オーストラリア



前田 直樹

代表取締役社長

DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社



金留 正人

プロジェクトリーダー

DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社



鳥海 淳

アセッサー

DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社

About DNV

Driven by our purpose of safeguarding life, property and the environment, DNV enables organisations to advance the safety and sustainability of their business. Combining leading technical and operational expertise, risk methodology and in-depth industry knowledge, we empower our customers' decisions and actions with trust and confidence. We continuously invest in research and collaborative innovation to provide customers and society with operational and technological foresight.

With our origins stretching back to 1864, our reach today is global. Operating in more than 100 countries, our 16,000 professionals are dedicated to helping customers make the world safer, smarter and greener.

Disclaimer

Responsibilities of the Management of the Issuer and the Second-Party Opinion Providers, DNV : The management of Issuer has provided the information and data used by DNV during the delivery of this review. Our statement represents an independent opinion and is intended to inform the Issuer management and other interested stakeholders in the Bond as to whether the established criteria have been met, based on the information provided to us. In our work we have relied on the information and the facts presented to us by the Issuer. DNV is not responsible for any aspect of the nominated assets referred to in this opinion and cannot be held liable if estimates, findings, opinions, or conclusions are incorrect. Thus, DNV shall not be held liable if any of the information or data provided by the Issuer's management and used as a basis for this assessment were not correct or complete

スケジュール-1 グリーンファイナンス候補プロジェクト

王子 HD グリーンファイナンスは、スケジュール-1 に記載されるプロジェクトから何れか又は複数を選定し充当する予定です。充当対象となったプロジェクト種別は年次報告で開示される予定です。現時点で開発、計画中であり具体的な候補プロジェクトが存在しないグリーンプロジェクト分類については、将来的に王子 HD により評価・確認されたものが充当対象となります。

No.	大分類	中分類	プロジェクト概要
1	再生可能 エネルギー	バイオマス発電	バイオマス発電事業の計画、建設、運営、改修
2		太陽光発電	太陽光発電事業の計画、建設、運営、改修
3		水力発電	水力発電事業の計画、建設、運営、改修
4		陸上風力発電	陸上風力発電事業の計画、建設、運営、改修
5	持続可能な 森林資源の保全	生産林、環境保全林	生産林、環境保全林の取得、保全に係る支出

スケジュール-2 グリーンファイナンス適格性評価手順

下記 GBP/GLP-1 ~ GBP/GLP-4 は、グリーンボンド原則(GBP)およびグリーンローン原則(GLP)の各種基準を基に作成された DNV のグリーンファイナンス適格性評価手順です。

GBP/GLP-1 調達資金の使途

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV観察結果
1a	資金の種類	グリーンファイナンスの種類は GBP/GLP で定義される以下の種類のいずれかに分類される。 ・(標準的)グリーンボンド/ローン ・グリーンレベニューボンド/ローン ・グリーンプロジェクトボンド/ローン・その他	- フレームワーク - インタビュー	評価作業を通じて、王子HDグリーンファイナンスは以下のカテゴリーに分類されることを確認した。 ・(標準的)グリーンボンド/ローン
1b	グリーンプロジェクト分類	グリーンファイナンスにおいて肝要なのは、その調達資金がグリーンプロジェクトのために使われることであり、そのことは、証券に係る法的書類に適切に記載されるべきである。	- フレームワーク - インタビュー	調達資金の全額をグリーン適格プロジェクトの新規投資及びリファイナンスに充当する予定であることが、訂正発行登録書等に適切に記載される予定であることを確認した。 具体的には、調達資金は以下のグリーンファイナンス候補プロジェクトの何れか又は複数に充当される予定である。 - 再生可能エネルギー(バイオマス(発電、熱供給)、太陽光発電、水力発電、陸上風力発電) - 持続可能な森林資源の保全(生産林、環境保全林の取得、保全に係る支出)
1c	環境面での便益	調達資金使途先となる全てのグリーンプロジェクトは明確な環境面での便益を有すべきであり、その効果は発行体/借り手によって評価され、可能な場合は、定量的に示されるべきである。	- フレームワーク - インタビュー	グリーンプロジェクトは、再生可能エネルギーの拡大など、環境面での便益を有することを確認した。また、その環境改善効果は、CO ₂ 排出削減や CO ₂ 固定量など、定量的に評価されることを確認した。
1d	リファイナンスの割合	調達資金の全部あるいは一部がリファイナンスのために使われる場合、又はその可能性がある場合、発行体/借り手は、初期投資に使う分とリファイナンスに使う分の推定比率を示し、また、必要に応じて、どの投資又はプロジェクトポートフォリオがリファイナンスの対象になるかを明らかにすることが推奨される。	- フレームワーク - インタビュー	調達資金のうちリファイナンスに充当された部分の割合は、少なくとも年に 1 回王子 HD のウェブサイトで開示予定であることを確認した。

GBP/GLP-2 プロジェクト選定及び評価のプロセス

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV観察結果
2a	プロジェクト選定のプロセス	グリーンファイナンスの発行体/借り手はグリーンファイナンス調達資金の使途となるプロジェクトの適格性を判断したプロセス概要を示すべきである。これは以下を含む(これに限定されるものではない) - 発行体/借り手が、対象となるプロジェクトが適格なグリーンプロジェクトの事業区分に含まれると判断するプロセス - グリーンファイナンス調達資金の使途となるプロジェクトの適格性についての規準作成 - 環境面での持続可能性に係る目標	- フレームワーク - インタビュー	フレームワークにより、調達資金の使途となるプロジェクトの適格性を判断するプロセスを有していることを確認した。 具体的には、王子 MO のグループ財務本部が、対象となるプロジェクトを管理するグループ会社、およびグループの環境ガバナンスを総括管理するサステナビリティ推進本部と連携し、プロジェクトの適格性を評価・選定し、グループ CEO が最終決定を行うプロセスが確立されている。 環境面での持続可能性に係る目標として、バイオマス発電の燃料調達は、FSC 等の認証を取得したものに限りとなっている。また、海外で取得する生産林や環境保全林は、基本的に FSC や PEFC 等の認証を取得する計画になっています。
2b	発行体/借り手の環境及び社会的ガバナンスに関するフレームワーク	グリーンファイナンスプロセスに関して発行体/借り手により公表される情報には、規準、認証に加え、グリーンファイナンス投資家は発行体/借り手のフレームワークや環境に関連する持続性に関するパフォーマンスの品質についても考慮している。	- フレームワーク - インタビュー	王子HDの実施するグリーンプロジェクトは、2050年度に「ネット・ゼロ・カーボン」を目指すことを掲げた「環境ビジョン2050」及び2030年にGHG排出量を70%削減する目標を制定した「環境行動目標2030」などと一致していることを確認した。 またプロジェクトの実行にあたっては、「環境マネジメントシステム(EMS)」や「環境監査」などに基づき、環境面に十分に配慮され、適切に対処されることを確認した。

GBP/GLP-3 調達資金の管理

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV観察結果
3a	調達資金の追跡管理-1	グリーンファイナンスによって調達される資金に係る手取金は、サブアカウントで管理され、サブ・ポートフォリオに組み入れ、又はその他の適切な方法により追跡されるべきである。また、グリーンプロジェクトに係る発行体/借り手の投融資業務に関連する正式な内部プロセスの中で、発行体/借り手によって証明されるべきである。	- フレームワーク - インタビュー	グリーンファイナンスによって調達される資金に係る手取金は、CMS等の内部システムで管理するとともに、専用の帳簿等により追跡可能であることを確認した。
3b	調達資金の追跡管理-2	グリーンファイナンスの償還/返済期間において、追跡されている調達資金の残高は、一定期間ごとに、当該期間中に実施された適格プロジェクトへの充当額と一致するよう、調整されるべきである。	- フレームワーク - インタビュー	グリーンファイナンスの実行から償還/返済までの期間、定期的にグリーンファイナンスの残高を専用の帳簿等を用いてモニタリングする計画であることを確認した。
3c	一時的な運用方法	適格性のあるグリーンプロジェクトへの投資または支払いが未実施の場合は、発行体/借り手は、未充当資金の残高についても、想定される一時的な運用方法を投資家/貸し手に知らせるべきである。	- フレームワーク - インタビュー	調達資金が全額充当されるまでの間、未充当金は現金又は現金同等物で管理されることを確認した。また、未充当金の残高は、資金充当状況のレポーティングを通じて開示予定であることを確認した。

GBP/GLP-4 レポーティング

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV観察結果
4a	定期レポートの実施	調達資金の使途及び未充当資金の一時的な投資のレポートに加え、発行体/借り手はグリーンファイナンスで調達した資金が充当されているプロジェクトについて、少なくとも年に1回、以下を考慮した上で、各プロジェクトのリストを提供すべきである。 -守秘義務や競争上の配慮 -各プロジェクトの概要、期待される持続可能な環境・社会的な効果	・フレームワーク ・インタビュー	調達資金が充当されるまでの間、王子 HD は少なくとも年に1回、資金充当状況や環境改善効果をウェブサイトで開示することを確認した。 【資金充当レポーティング】 ・ 適格プロジェクト毎の充当額（新規支出とリファイナンスの割合を含む） ・ 未充当金額 【インパクトレポーティング】 ＜再生可能エネルギー＞ ・ プロジェクト概要 ・ 発電電力量（MWh）または発電容量（MW）（熱供給の場合はボイラの容量） ・ CO₂ 排出削減量（実績値または計画値を基に推計） ＜持続可能な森林資源の保全＞ ・ プロジェクト概要 ・ 持続可能な管理の対象となる森林等の面積（ha） ・ CO₂ 固定量(t-CO₂)または CO₂ 純吸収量(t-CO₂)